

高雄日本人学校の風

(渡辺先生の小中学校時代からの友人の新潟日報記者が記事を書いてくれました)

校長 高口和治

11月14日(水)

「第51回 平成24年度 台南南部地区 日本人物故者慰霊祭」に、校長、藤重先生、渡辺先生、小学部6年生13人と参加してきました。

墓地は、高速道路で北に上がるときに、右側にゴミ処理場が見えます。その裏一帯が墓地になっています。その一角に、日本人のための慰霊碑と納骨堂があります。少しはやくついたので、特別に慰霊碑に進ませてもらいました。その慰霊碑の下にある3000柱が眠っている骨壺を見せていただきました。その箱には「台南市」「高雄市」などと、台湾南部の地名が書いてありました。子どもたちは、慰霊碑も骨壺も真剣に見ていました。

式は10時に始まりました。去年は、ぽつぽつ雨が当たったのですが、今年は暑くて、ちょっと具合がわるくなった児童もいましたが、しっかり日本人学校の代表として務めてくれました。

日本からお坊さんがやってきました。毎年その宗派から、来てくれているそうです。また、その宗派からは台湾とは直接関係ない方がやってきてくれています。また、高雄の参列者は、交流協会、日本人会、学校などの関係者の参加で会が進められていきました。多くの児童は焼香の経験はないと思いますが、前の人のをまねして焼香をしていました。

11月16日(木)

小学部4年生、校長、渡辺先生、吉原先生、曾先生と烏山頭ダム of 社会科見学に行ってきました。夏休みに、以前のPTA会長の堺さんから高校の歴史の先生を紹介されました。話をしているなかで、一緒に烏山頭ダムの見学に行くことになりました。事前では、子どもたちは、ただ、顔会わせて活動をしただけで、社会科の中味には触れていません。

8時半に学校を出発、烏山頭ダム、銅像、機関車、殉工碑、資料館、復元された家というように回ってきました。多くの授業では、どうしても本を読んだり先生の話の聞いたり、資料を基に考えることが多くなります。事前に、ダムや八田與一のことを学習して行ってきました。銅像には、花をたむけ、墓にはお参りをしました。高校生には、先生が日本の墓の説明もしていました。殉工碑では、日本人と台湾人が亡くなった順に名前が刻まれています。「植民地時代に支配する側とされる側が同列にならんでいるというところがすごい」という歴史的価値があると思われます。資料館に行ったら、台北日本人学校の6年生が修学旅行に来ていました。また、八田與一さんの奥様の外代樹さんが放水路に飛び込んだところも見学しました。未だに、その理由ははっきりとはしていません。

ともかく、今でも、台湾に息づいている八田與一とその残したものの、そして、感謝している台湾人、その台湾人とつながる私達です。

